



編集雑記

既刊案内 (特集・主要記事)

[4月号]

◎「シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.77」木更津工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授 大久保努氏を訪ねて DHS (下降流スポンジ担体) による排水処理に取り組み 学生を伴い途上国の現場へ…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎「流域水循環計画」5計画を公表し、流域マネジメントを推進～4計画を新たに追加～…内閣官房水循環政策本部事務局 ◎公共交通機関におけるバリアフリー化が着実に進捗!～令和3年度 移動等円滑化に関する実績の集計結果概要～…国土交通省 ◎建築物を販売・賃貸する際の省エネ性能の表示ルールをとりまとめ…国土交通省 ◎水道事業における耐震化の状況(令和3年度)…厚生労働省 ◎フンコイン浸水センサ 浸水を検知～実証実験の今年の状況を報告します～…国土交通省 ◎第45回「全日本中学生水の作文コンクール」の実施!…国土交通省 ◎ハイブリッドダムの取組に関するサウンディングでのご意見等も踏まえ、事業化に向けた検討を進めていきます…国土交通省 ◎地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における令和元年度温室効果ガス排出量の集計結果の公表について…環境省 ◎下水汚泥資源の肥料利用の拡大に向けた課題や取組の方向性を公表しました…国土交通省 ◎「PRESS RELEASE 1」大阪大学感染症総合教育研究拠点(CIDER)とWhole Earth Foundation(WEF)、共同研究契約を締結…大阪大学 ◎「PRESS RELEASE 2」COVID-19流行が他のウイルス性呼吸器感染症に与えた影響を遡及型下水疫学調査により可視化…北海道大学 ◎「明日への道標」革命のエチュードを捧げる—シヨパン郷愁のピアノ—…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎「東京見て歩き(111)」東急池上線沿線…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎「特別連載」平成を偲ぶパロディ狂歌集(48)—平成一人百首市議会①(全3首)…弁護士 野平大魚 ◎「建築着工統計[2023年1月]」…国土交通省 ◎エッセイ 西村修一、新田純子

[5月号]

◎「シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.78」広島大学大学院 先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム 環境保全工学研究室 准教授 金田一智規氏を訪ねて ダークマター 微生物を解明し管理指標に3種類のアナモックス細菌の社会実装目指す…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎「MIZBE ステーション」はじめました!…国土交通省 ◎「持続可能な地域づくりのための生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)の手引き」の公表について…環境省 ◎インフラメンテナンスの優れた取組や技術開発を表彰!～第6回「インフラメンテナンス大賞」受賞者(大臣賞等)を決定～…国土交通省 ◎「産業のGXに向けた資金供給の在り方に関する研究会施策パッケージ」…環境省 ◎大河川から中小河川まで地域の洪水の危険度が一目で分かります～洪水キキルと水害リスクラインを一体化～…国土交通省 ◎災害時に電動車は非常用電源として使えます…国土交通省 ◎令和3年度末の汚水処理人口普及状況について…国土交通省 ◎都市計画基本問題小委員会中間とりまとめ～多様な価値観や社会の変化を包摂するまちづくりを目指して～…国土交通省 ◎東京の住まいにおける子育て環境の向上のための新たな取組を開始します…東京都住宅政策本部 ◎令和5年度予算案における環境保全経費の概要について…環境省◎「明日への道標」笑ってもらいたい—長谷川町子とサザエさん—…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也◎「東京見て歩き(112)」喜多方の枝垂桜、会津鶴ヶ城と福島の花見山…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道◎「特別連載」平成を偲ぶパロディ狂歌集(49)—平成一人百首 市議会②(全3首)…弁護士 野平大魚 ◎配管ビジネスのための営業・マーケティング活動 実戦講座(第1回)—業界の異端児が語る「イデオリズム」とは何か?—…IDE 研究所 井出浩司◎「建築着工統計[2023年2月]」…国土交通省 ◎エッセイ 西村修一、新田純子

五月から六月は総会シーズンといって業界紙が取材で忙しくなる季節だ。メーカー・商社・工業業者など各種の業界団体が総会を開いて昨年度の事業報告を行い、新年度の事業計画を決定する。二年ごとの役員改選では留任する人、退任する人、新任される人とさまざまな人間模様が交錯する。

お世話になった方が業界から退くとき、わたしはどうしようもない寂寥感に囚われる。出会いがあれば別れもあるとわかっていても惜別の想いは断ちがたい。小説家の井伏鱒二は『厄除け詩集』で中国・唐代の予武陵による漢詩「勸酒」の最後の一節を「さよならだけが人生だ」と翻訳した。井伏を兄のように慕っていた太宰治は未完の遺作『グッド・バイ』を残して玉川上水で心中する。

井伏は「勸酒」を訳す際に『放浪記』で有名な林芙美子の言葉を意識したと『因島半歳記』に書き記している。芙美子とは講演旅行で瀬戸内海の因島を訪れたことがあった。帰りの船に乗ると見送りの人々が岸壁で「さよなら、さよなら」と手を振っていた。同様に手を振っていた芙美子はいきなり船室に駆け込んで泣き伏した。そして「人生はさよならだけね」と呟いたという。

茶道では千利休の教えとして弟子の山上宗二が後世に伝えた一期一会をもてなしの極意と見做している。一期は仏教用語で一生を意味する。茶室での出会いは一生に一度と心得て誠意を尽くす。悠久の歴史から見れば人間の一生もほんの一瞬にすぎない。だからこそ二度とない出会いと別れがかげがえのない想い出になっていく。(高倉)

給排水・衛生・環境設備の総合誌

月刊「コア」第403号

令和5年6月10日発行 定価1,000円(税別)

発行編集人 高倉克也

印刷所 (株)日本設備工業新聞社出版事業部

発行所 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町10-13

(野元第1ビル)(株)日本設備工業新聞社

TEL (03) 3496-4774(代)

FAX (03) 3464-1884